

第 27 回環境安全委員会 議事要旨（案）

1. 開催日時 平成 25 年 6 月 26 日（水）10:00～12:00
2. 開催場所 ホテルイースト東京 3 階 永代の間
3. 出席者 中杉委員長、佐古委員、織委員、岩崎委員、小安委員、木下委員、
榎本委員、秋田委員、綾部委員、堀田委員、山根委員、土屋委員
（順不同）
4. 議 事（公 開）

○議題 1 東京 PCB 廃棄物処理施設の操業状況について

資料 1 に基づき JESCO より説明及び質疑応答を行った。主な意見は以下のとおり。

（委員）水熱の配管腐食に関し、凝縮が始まる再生熱交換器の入口部が条件的に厳しいと思う、その腐食状況は。

（JESCO）入口部の腐食は確認されていない。

（委員）直管部の腐食は無いのか。また、犠牲陽極のテストはやったのか、これで形成されるのは酸化膜か。

（JESCO）直管部では確認されていない。また犠牲陽極のテストは実施していない。実機でテストする事となる。犠牲陽極が溶け出す期間で新たな保護皮膜が形成されると考えている。

（委員）この腐食発生は想定内か、想定外の事象か。

（JESCO）腐食は想定内だが、新規溶接箇所での発生は想定外と言える。

（委員長）入口部も含め、十分に監視していくことが重要になる。

（委員）オンラインモニタの PCB 濃度高々で、気流は横方向で活性炭が配置されているようだが、通常は気流を上下方向にして、ショートパスが生じないようにしている。

（JESCO）横方向での活性炭配置になっている。以前ショートパスによると思われる PCB 濃度高々があったことから、その対策として活性炭槽上部を嵩上げし、活性炭の沈下が生じてショートパスが起きないようにしている。

（委員長）先生の意見を参考に工夫する必要がある。

（委員）ヒヤリハットで想定が増えているとの事だが、処理量が増加したことにより増えていることは無いのか。注意していく必要がある。

（委員）登録台数と累計処理台数から平成 24 年度処理実績で概算すると、トランスが残り 4～5 年、コンデンサが 6～7 年になる。平成 24 年度より処理を増やすことは可能か。残台数の大型・小型の比率は十分に把握しているのか。

（JESCO）特にコンデンサ処理は、平成 24 年度実績より 2 割程度増やす必要がある。
なお、台数試算はそうなるが、重量ベースではやはり 35 年位までかかる。

(委員) その意味で大型・小型を十分に把握し、しっかり計画を立て、35年を守るようにお願いしたい。

○議題2 東京事業所における二次廃棄物等（低濃度）の搬出について

資料2に基づき JESCO より説明及び質疑応答を行った。主な意見は以下のとおり。

(委員) 何故、近くにあるTRPで処理しないのか。長距離輸送に伴うリスクもある。

(JESCO) TRPはPCB油類の焼却処理の認定は受けているが、東京から出る二次廃棄物等に対する処理施設としては認定されていない。

(委員) ロータリーキルンで処理との事、焼却試験のデータがあったら公開すべき。

(環境省) 無害化処理施設を認定時の試験データ等は既に公開している。別途送付する。

(委員) パワーポイントの搬出開始時期が平成26年になっていたが。

(JESCO) 誤記でした、修正します。なお、搬出予定時期は7月中旬としているが、15日が海の日で祝日なので、16日火曜日を目指している。

○議題3 大規模災害安全性の検討について

資料3に基づき JESCO より説明及び質疑応答を行った。主な意見は以下のとおり。

(委員長) 保管中の場合だけでなく、例えば運搬中に大地震が発生した等、想定リスクをもっと深め、対応の検討を続けて欲しい。

(委員) 自然災害時のリスク洗い出し、訓練をやって欲しい。

(JESCO) 拝承

○議題4 その他

環境省より処理推進に係わる取組み関する挨拶があった。

(委員) 低濃度処理の認定の状況は。遠くまで持って行かなくても処理できるようにすべき。また、地元への説明は丁寧にやって欲しい。

(環境省) 東京近郊の施設からも申請がでている。申請～公表～審査の手続きは、都度開示している。

○その他

(委員) 見学者の意見や従業員のモチベーションアップ、リスクコミュニケーション、数値で示せる以外の従業員の雰囲気大切にしたい。

以上